

## 主 題：主イエス・キリストの誕生 2

## 聖書箇所：ルカの福音書 2章11節

1924年（大正13年）にアメリカ人リラ・ロングが書いたゴスペル曲を皆さんにご紹介したいと思います。この曲のタイトルは「イエスという名は私が知っている最も愛おしい名前です」という長いものです。この歌詞を紹介します。「1. 聞きたい名前はたくさんあった。しかし、こんなにも私の心に愛おしい名前はなかった。神のお名前、尊いイエスという尊いお名前、（コーラス）イエスは私が知っている最も愛おしいお名前、そして、このお方はその名前通りのお方である。だから、私は彼を愛する。イエスは私が知っている最も愛おしいお名前。」、この曲には2番、3番があります。「2. イエスという驚くべき栄光のお名前、私たちが名誉と愛を捧げるのにふさわしい名前は地にも天においてもひとつもない。聖なる御名をともし称えよう。驚くべき輝かしいイエスの御名を。3. いつか私は顔と顔を合わせて主を見るであろう。そして、彼の驚くべき恵みを感謝し誉め称える。その恵みは彼が私を自由にしてくださったときに、私に与えてくださったもの。聖なる神の御子はイエスと呼ばれた。聖なる神の御子はイエスと呼ばれた。」。

前回私たちは、天使が現われて夜番をしていた羊飼いたちに、救い主の誕生を伝えたところを見ました。「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」（ルカ2：11）。天使たちはこの救い主の誕生を羊飼いたちに告げただけではありませんでした。今日、私たちが見るマタイの福音書の中では、主の使いがヨセフに現われています。そして、大切なメッセージをヨセフに告げたことが、このマタイの福音書1章に記されています。

## A. 「イエス」の意味 1：18-21a

## 1. 背景 1：18-20

その様子は1：18から記されていますが、その背景を簡単に説明します。ヨセフとの結婚が決まっていたマリヤ、ある日、ヨセフは彼女が妊娠したことを知らされます。ヨセフはひどい傷心の中、正しいことを行なおうとします。当然、選択はありました。自分を裏切った彼女に対して怒りや復讐心をもって行動することもできましたが、彼はそうしませんでした。彼女に対して、そして、何よりも神に対して正しいことをしようと思いついていました。その時に、天使、主の使いがヨセフに現われて、マリヤの妊娠は不貞によるものではなく神によるものであることを告げたのです。そのことがここに詳しく書かれています。特に、20節からご覧ください。「彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った、『ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたに妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。』」と。主の使いは大変なことをヨセフに告げたのです。彼女が身ごもっていることは神のみわざである、神のすばらしいみわざであるということを知りました。そして、その後、主の使いは次のようなメッセージをヨセフに与えました。21節「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。」。

## 2. その名の意味 1：21a

驚くべきことは、まだ生まれてもいないのに、今から、約2000年前、主の使いは生まれて来る子どもが男の子であると知っていました。神から遣わされた子だったからです。そして、この子の名前を「イエス」とつけなさいと命じます。この子の名まで天使は告げました。間違いなく、そこには大切な意味があるはずで、何か大きな理由があるはずで、なぜなら、このような命令を天使はこのヨセフに与えたからです。私たちは今からそのことを見ていきますが、まず、この「イエス」という名の意味について知ることが必要です。非常に大切な意味があるからです。

「イエス」とは「主は救いである」とか「主の救い」を意味することばです。旧約聖書において、エシュア、ヨシュアという名がありました。これらはヘブライ語ですが、そのギリシャ語形が「イエス」です。ですから、新約の「イエス」と旧約「ヨシュア」は同じ意味をもっているのです。民数記13：16に「以上は、モーセがその地を探らせるために遣わした者の名であった。そのときモーセはヌンの子ホセアをヨシュアと名づけた。」とあります。この「ヨシュア」とは、「ヤーウエ（Yahweh）」の「Yah」と「救い、救う」ということばが結合したことばです。ですから、「主は救い」ということばの中に「主」ということばと「救い」ということばが含まれているのです。ヤーウエが「救う」という意味です。

思い出してください。このヤーウエは神ご自身がご自分のことを呼ばれた名です。この名前は旧約聖書の中で最も多く使われている名前です。少なくとも6826回出て来ます。これは「契約の神」という意味で使われます。つまり、神は約束したことは絶対に守るお方であるという意味です。ヤーウエと

言ったときに「わたしはわたしが言ったことを絶対に確実に守る」とそのことをいうのです。ですから、イスラエルの民の歴史を考えてみてください。彼らの歴史は祝福とさばきを交互に経験しています。神が「わたしに従いなさい」と言われてその通りに従ったときにはそこに祝福がありましたが、彼らが主のみこころに反して逆らったときには、そこにさばきがありました。民はさばかれたときには悔い改めて、また、神の祝福をいただいて、そして、また、罪を犯して…とそのことを繰り返しました。

このことは私たちに何を教えているのでしょうか？神は言われたことを必ず守るお方だということです。主に従うなら祝福があるけれど、主に背を向けるならそこには必ずさばきがあるのです。このような神であるということをイスラエルの歴史が明らかにしています。ヤーウェという神は言われたことをその通り守るお方であると。

主の使いが言いました。「マリヤは男の子を産みます。「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい」と。「主は救いである」、「ヤーウェは救いである」、約束を守るお方である、その約束を成就なさったのです。ついに、待望の救い主を送ってくださったのです。「イエス」という名が「主は救いである」と、そのことを今見て来ました。

## B. イエス誕生の目的 1 : 21 b

そして、21節の後半を見ると、イエスがこの世にお見えになったその目的が記されています。「この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」、これがこのひとりの男の子がこの世にお生まれになったその目的である、イエスがこの世にお見えになった目的であると教えます。

### 1. 罪とは？

何のために、イエスがこの世にお見えになったのか？人々をその罪から救い出すためです。私たち、特に、日本人は「罪」ということばを聞くときに聖書的な意味では理解しません。世の中の法に触れたとか、何かの犯罪をしたとか、その時に「罪人」と呼んだりしますが、聖書が言っている「罪」はそのような意味をもっていません。ご存じのように、これは「的を外す」という意味です。創造主なる神のみこころに、創造主なる神があなたに対してもっておられるその命令に背いた生き方をすることです。神があなたに望んでいる生き方とは違う生き方をしているということです。歩むべきその歩みから外れているということです。それを「罪」と言い、そして、そのような生き方をしている人々を「罪人」と呼んだのです。

私たち人間はみな罪人です。そこに例外はありません。私たちの犯している罪について、「行わない罪」と「行なう罪」があります。私たちのすべてはこの中に含まれます。

・**行わない罪**：創造主なる神が「これを行わないなさい、このように生きていきなさい、これがわたしの命令です。これがわたしのみこころです。」と、そのように命じておられることを行なわないのです。神が望んでおられるように生きようとしないのです。こうして、私たちは神に背を向けて、神に逆らう罪を犯しています。

・**行なう罪**：同時に、「行なう罪」があります。神が行なってはならないと命じておられることを行なうことです。「正しくありなさい」と言われても、私たちはそんなことは知ったことではない、自分のやりたいことをすると言って神に逆らい、神がこのような罪を犯してはいけない、こういう汚れをしてはならないと言われているのに、自分の好きなように人生を生きると言って、神がしてはいけないと言われていることを私たちは行なっているのです。

私たちのすべての罪はまさにこの二つに属します。神が「しなさい」と言われることをしないで、「してはいけない」と言われることをやっているのです。こうして、私たちは例外なく歩むべき道からみな外れていると言うのです。あなたを造ってくださった神が意図しておられる人生から、その道から外れてしまっているのです。みな、創造主なる神を信じてその方に従うよりも、自分勝手な生き方をして、自分の好きなように生きていきたいと言うのです。

だから、パウロはこう言っています。ローマ人への手紙2 : 5「ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現れる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。」と。こういうことです。みな、神が存在していることを知っていながら、その神を私たちは探り求めようとしないのです。そして、すべてを造られた神がいることを知っていながら、その神を信じようとしません。その方に感謝をささげようとしません。却って、私たちは自分の好きなように生きていこうとし、そのように生きていると言うのです。ですから、神が望んでいる道から外れているだけでなく、私たちが造ってくださった神ご自身に対して、私たちは信じることもしないし、感謝もしないのです。神を完全に拒絶するのです。こうして、私たちは神の前に罪を犯しているのです。

皆さん、私たちはこのクリスマスのときに、主イエス・キリストの降誕を喜びます。そして、そのすばらしい救いのメッセージを人々に伝えます。でも、多くの人は主イエス・キリストがあなたを救うために来てくださったと聞いても何とも思いません。罪を赦すために来てくださり、そして、ご自身

のいのちを捨ててくださった方であるにも関わらず、だれ一人として、その方に感謝を表わそうとしません。その方を心から崇めようとしません。余計なお世話だ、知ったことか、そんな救いなど私は必要としないと言います。こうして、私たちは神のみこころから完全に離れた、的から外れた生き方をし続けているのです。道理で、神は私たちに永遠のさばきを警告されています。神の命令にことごとく逆らい、神に背を向けている私たちに対して、神は当然、私たちが受けるべきさばきを約束し、警告を与えておられます。

## 2. 救い

しかし、このメッセージは私たちに教えてくれます。そのことを知った上で神は私たちのために救い主を備えてくださったと。「この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」と言います。あなたの罪からあなた自身を救うためにこの救い主は来てくださったのです。この「救い」と言ったときに、二つのことを覚えてください。一つは「あなたを永遠のさばきから、地獄から救ってくださる」という救いです。同時に、「あなたを束縛していたその罪の力からあなたを救ってくださる」という救いです。

### 1) 罪のさばきからの救い

主イエス・キリストは人が死んだ後どうなるのかを明確にお教えになりました。ヨハネの福音書5：28「このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。」と、少なくとも、このことをしっかり覚えましょう。人は死んでそれで終わるのではありません。どこかわけのわからないところにいつまでもありません。人は死んだ後、必ずよみがえって来る日がある、その日を待つと言います。例外なく、すべての人はよみがえります。そして、29節「善を行った者は、よみがえっていのちを受け、悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです。」と。よみがえった後、ある人たちは永遠のいのちをいただいて神とともに永遠を過ごし、ある人たちは自分の罪のさばきを受け、永遠の苦しみを受けるのです。

そして、この中にはひとり一人に課せられている大きな責任が語られています。私たち人間はどちらかに行くという警告をしますが、そのご自分の永遠の行き場所に関して、その責任はあなたにあるとみことばは言っています。もう一度、みことばを見てください。「善を行った者は、…悪を行った者は、…」と、つまり、神はあなたに対して「あなたはどうするのか？」と問いかけておられるのです。悪を行ない続けていくのか？神に背き続けていくのか？あなたの創造主であり、あなたを愛してあなたに救いを備えてくださった神に背を向け続けるのか？と。そうであるなら、あなたに約束されていることは永遠のさばきだと言います。しかし、もし、あなたが神の前にその罪を悔い改めて正しいことを選択するなら、あなたに約束されているのは永遠のいのちであると。

ですから、こうして今、ヨハネ5：28、29のイエスのメッセージを見ているのですが、そこには「あなたはどうするのだ？」とあなたの責任が問いかけられているのです。あなたはどのような選択をするのかと神ご自身が問いかけておられるのです。同じ、ヨハネ5：24にも「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」とあります。あなたがこの救い主であり真の神であるイエス・キリストを遣わした父なる神を信じることによって、あなたは救いに与ると言うのです。イエスはあなたには責任があるということをお知らせします。

ですから、もし、あなたがこの救いを拒み続けて地獄に行ったときに、神を責めることはできないのです。あなたがそれを選択したからです。あなたが救いを拒むという選択をし、あなたが永遠のさばきを選択したゆえに、それがあなたの身に起こるのです。よく皆さんがご存じのみことばですが、ヨハネ3：16に「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」とあります。つまり、神はあなたに「どうするのか？」と問いかけておられるのです。問いかけ続けておられます。間違った選択をしてはいけない、神に逆らい続ける選択をしてはいけないと、神は警告を与え続けておられます。その警告は今も与えられ続けています。神の警鐘は今も鳴り続けているのです。「目を覚ましなさい、いつまでも主に逆らい続けることをしてはならない。なぜなら、そこには必ずそれにふさわしい報いがあるから。永遠のさばき、永遠の地獄があるから。」と。

ですから、「イエスが救い」と言ったときに、感謝なことに、当然、地獄に行くことがふさわしい私たちがその永遠のさばきから救ってくださったわけです。

### 2) 罪の束縛からの救い

また、私たちをこの罪の束縛から救ってくださると言います。パウロはこう言っています。ローマ6：22「しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。」と。私たちは罪から解放されて神の奴隷となって救われたということです。それゆえに、私た

ちは「聖潔に至る実を得た」、つまり、私たちの生き方は変わっていく、神に喜ばれる生き方へと変えられていくと言うのです。そのようにして皆さんは歩んでおられます。また、パウロはガラテヤ5：16で「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」と語っています。パウロは、この救いに与った皆さん、あなたが主なる神に自分のすべてをゆだねて主に忠実に従っていくなら、主はあなたを助けてくださり、そして、かつてのように、罪の中を歩み続ける生き方ではなく、神が喜ばれる生き方をもって神に栄光を現わすことができると言うのです。

そのような新しい人生をあなたは歩むことができる、それを可能にしてくださったのが神だということです。ですから、救いに与った私たちは主によって救われた者にふさわしい、主が喜んでくださる生き方を為していくことができるのです。なぜなら、今まで私たちを捉えてがんじがらめにしてどうすることもできない罪、その罪から逃れることができない私たちを解放してくださったからです。その罪の力から解放されたのです。ですから、救われた私たちは神の栄光を現わす、神のすばらしさを現わす生活を送ることが可能になったのです。

### C. 「イエス」だけが救い主である

この主の使いはヨセフに対して「ひとりの男の子が産まれる。その名をイエスとつけなさい。」と命じました。そして、この人物は、他にも「イエス」と名のついた人はたくさんいたでしょうが、その人たちとは違う、彼はその名の通り、罪人をその罪から救い出すことがお出来になる方だと、そのように告げたのです。そうすると、私たちに出て来る疑問はいつもそうですが、なぜ、イエスだけが救い主なのか？ということ。なぜなら、私たちの周りにはいろいろな宗教は私たちに救いを約束してくれます。これだけのことをしたら…とか、このような行ないをするなら、あなたも救われると。どこが違うのでしょうか？多くの人は言います。どの宗教でも同じだ、言っていることはみな同じだから…と。

#### ◎その理由：

果たして、そうでしょうか？みことばが私たちに教えていることは、このイエス・キリストが備えてくださった救いは、それ以外の、人間が考え出したあらゆる宗教が約束する救いとは全く違うものだという事です。使徒の働き10：43をご覧ください。「イエスについては、預言者たちもみな、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しを受けられる、とあかししています。」、イエスだけが本当に救いをもたらすことができるのです。その理由は二つあります。イエスの贖いを見るときに、私たちは彼だけが本当の救い主だということが分かります。もう一つは、この方が神であることがこの方の救いが完全であると私たちは知るのである。

#### 1. イエスの贖いのゆえに： 備えられた完全な救い

主イエス・キリストは私たちに罪の赦し、救いをもたらすためにこの世に来てくださった。そして、すばらしいメッセージを説いて、そして、亡くなって墓に葬られた…と、そうではありません。主イエス・キリストはこの世に来られて、ご自分のいのちをあの十字架の上で犠牲にしてくださいました。そして、イエス・キリストはその死から敢然とよみがえって来られた。あの十字架で流されたイエス・キリストの血潮、十字架の上で犠牲にされたイエス・キリストのいのち、それはあらゆる罪を赦す力があるのです。確かに、そのことをみことばは繰り返して私たちに教えています。

たとえば、ヨハネはこのように言います。Iヨハネ1：7「しかし、もし神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」と。ヨハネの証言は、イエス・キリストの十字架はあらゆる人々の罪を完全に赦すことができるその力を持っているということです。また、ヘブル書の著者はこのように語ります。9：26「もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。」。人間はいけにえをささげて神の前に罪の赦しを得ようとして来た。確かに、そのことを神が人間に命じておられた。しかし、いけにえによっては罪を完全に取り除くことはできない。そこで、キリストがただ一回の犠牲をもって、信じるすべての人の罪を完全に永遠に赦すためにこの世に来られたのだと、そのように言うのです。イエス・キリストの十字架は私たち罪人の罪を完全に永遠に解決して下さると。

同じヘブル書10：14には「キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。」とあります。イエス・キリストの犠牲によって、この救いは完全に永遠に成就すると言います。同じヘブル書10：17には「わたしは、もはや決して彼らの罪と不法とを思い出すことはしない。」と記されています。すごい感謝な約束だと思いませんか？神はもうあなたのすべての罪を思い出すことをしないと。あなたがこれまで神の前に逆らい続けて来たありとあらゆる罪、心に抱いて来たあらゆる汚れ、それらの多くの罪に対して神は「わたしはもうそのようなすべての罪を思い出すことをしないと。」と言われるのです。なぜですか？赦してくれたからです。神がすべてを赦してくださったからです。過去だけでなく、現在においても、そして、未来においても神はすべての罪を思い出すことを

しないと言われるのです。

今、私たちはヨハネや、そして、このヘブル書の著者が「イエスだけが救い主です。イエスだけがすべての罪を赦すことができるのです。このイエスによってすべての罪は永遠に完全に赦されるのです。」と言っているその証言を見ました。でも、まだ私たちに出て来る疑問は「どうしてそう言い切れるのか？」ということです。他でも同じことを言っているではないか？「なぜ、イエスだけが唯一の救い主」と言い切れるのか？と。

それに対して詩篇のみことばが答えを与えてくれています。詩篇130:7, 8「7 イスラエルよ。【主】を待て。【主】には恵みがあり、豊かな贖いがある。」と、つまり、ここでみことばは「贖い」の約束を与えたのです。救いの約束です。そして、8節「主は、すべての不義からイスラエルを贖い出される。」。神はイスラエルに救いの約束を与え、そして、その救いを神が与えてくれると言うのです。8節にはイスラエルを救い出すのは「主」だとあります。主語は「主」です。「あなたたちは贖い出される、そして、神があなたたちを贖ってくれる」と、これがイスラエルに対するメッセージです。つまり、聖書が私たちに教えていることは、私たちの罪の赦しというのは、私たち人間が一生懸命努力をして勝ち取るものではなくて、神ご自身が備えてくれるということです。ということは、イエス・キリストの贖いが他のいろんな教えと違うことは、十字架で死んでくださったお方はあなたを造ってくださった神ご自身だということです。あなたの罪を完全に赦すことができるその力をもっておられる神ご自身です。贖いの約束を与えたその神が唯一の方法として選ばれたことは、神ご自身が贖いを与えるという方法でした。それしか方法がないからです。

神は立派な人を用いようとはしなかった。人間のもたらす救いは不完全だからです。唯一完全なお方である神が人として来てくださり、あなたのそのすべての罪をその聖い身に負われて、あなたの身代わりとなって十字架で死んでくださった。神がご自分のいのちを犠牲にして備えてくださった救いであるゆえに、この救いだけが完璧なのです。他のどこにこんな教えがありますか？神が人となり、神があなたのすべての罪を負ってくださり、あなたの身代わりにあなたが受けるべき罪のさばきを受けてくださり、あなたのためにすばらしい永遠の救いを備えてくれたのです。まだ、あなたがこの神に逆らい続けている時にです。なぜ、イエス・キリストの救いだけが本当の救いをもたらすのか？創造主なる神ご自身があなたのために備えてくれた救いだからです。イエス・キリストの贖いは、その方の前に助けを求めて行くなら、どんな罪人の罪も赦して頂けるその力を持っているのです。

## 2. イエスが神であるゆえに

イエスが神であるゆえに、この方が備えられた救いは完全なものです。主の使いはヨセフに言いました。生まれてくる男の子は「イエス」と名を付けると。「神が救う」ということです。そして、その神が生まれたのです。このイエスに対する名前はいろいろとあります。新約聖書を見てもたくさん出て来ます。今、見ていきたいのは、皆さんがよくご存じのイザヤ書9章に記されているところです。神は救世主が生まれるという預言をされました。イザヤ書9:6「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。」と預言を与えられました。それは救いをもたらすためです。そして、この後、この方の名前が列記されています。「主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。」と。イザヤ書は教えてくれます。この世に来られる救い主はこのような名前と呼ばれるにふさわしいお方ですと言うのです。

### 1) 不思議

このことばは、あのサムソンの父であったマノアが、まだサムソンが生まれる前のことですが、不妊の妻が子どもを産むという、そのことを聞いた時にマノア自身が主に求めるのです。士師記13:17「そこで、マノアは【主】の使いに言った。「お名まえは何とおっしゃるのですか。あなたのおことばが実現しましたら、私たちは、あなたをほめたたえたいのです。」と、マノアはまだこれが主の使いであると分かっていなかったのです。そこで18節「【主】の使いは彼に言った。「なぜ、あなたはそれを聞こうとするのか。わたしの名は不思議という。」と、ここにイザヤ書と同じことば「不思議」が使われています。このことばは「驚くべき、驚嘆する、理解することが困難」という意味をもったことばです。つまり、私たちは神という方のそのすべてを知ることはできない。そして、この神は、知れば知るほど驚くことばかりだと言うのです。

主が私たちの生活の中で為してくださっているそのわざを見る時に、いつも驚かされます。「何とすごい働きを為さるのだろう！何という神なのだろう！」と。そして、私たちも神のことを知るためにこの聖書が与えられ、私たちは聖書を通して神のことを知るのですが、私たちは神のすべてを知りましたか？イエスを信じるときもそうでした。聖書を読んでいても、神の話を聞いていても、私たちは理解できなかった。聖霊が働いてくださったから初めて分かったのです。神というお方は不思議な方、驚くべき驚愕に値するお方である。私たちの不完全な頭では神のことをすべて知ることは全く不可能である、

そのような神だと言うのです。イエスがこの地上におられたときもそうでした。イエスが為さること、イエスのそのすばらしさを見て人々は「不思議」と思いました。すべてを理解できなかったのです。

## 2) 助言者

この方は完全な知恵をもって導かれるお方です。神にアドバイスを与える必要はありません。神はそんなものがなくても正しい判断をなさる知恵のあるお方です。感謝なことに、この助言者なる神が私たちに知恵を与え、導きを与えてくださるのです。

## 3) 力ある神

このお生まれになる方、この男の子は「力ある神だ」と言います。どうしてこのイエスが神でないと切り切れるのでしょうか？イザヤ書9章6節が預言している人物はだれなのか？はっきりしています。あのベツレヘムでお生まれになったイエス・キリストです。イザヤははっきりと私たちにその男の子は「力ある神だ」と言いました。ということは、イエスが神であることを否定するすべての教えは神の真理に立っていないだけでない、すべてを惑わすものです。サタンを喜ばせるものです。サタンがしようとすることは、真の神を信じないように人々を惑わし続けることです。みことばは私たちにはっきりとこのお生まれになる方は「力ある神だ」と言います。

## 4) 永遠の父、永遠の神

この方は永遠に、まさに、父として私たちに治め続ける方であると言います。

## 5) 平和の君

この地に完全な平和をもたらします。それまで、人間がどんなに協力し合って平和を作ろうと努力をしても、人間が作り出す平和は不完全なものです。この方が完全な平和を作り出されます。だから、「平和の君」と呼ばれるのです。それだけではありません。この方は人間と神との関係も修復なさいます。人のうちに神との平和をもたらしてくださるお方です。

ですから、今、このようにイザヤの預言を見た時に、このお生まれになる方は私たちの理解を越えた方であり、この方は完全な知恵をもってあなたにアドバイスを与え、あなたを導かれる方であり、この方は力ある神であり、そして、永遠にあなたを父としてお治めになる方であり、そして、あなたに本当の平和をもたらす方であると、イザヤはこのような方が生まれると言ったのです。

そして、マタイの福音書は天使のことばを告げました。天使は言います。「預言されたその方が生まれたのだ。待望の救世主が、救い主が来てくださった。」と。このイザヤが預言したまさにその人物がお生まれになったと。「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」が生まれたと。だから、この方が備える救いは完璧なのです。平和の君だから、本当の平和を与えてくださいます。完璧な助言者だから、あなたに知恵を与えてくれる、そして、力ある神だから、あなたに完全な救いを備えてくださる。皆さん、神はあなたにこの救いを与えるためにこの世に来てくださったのです。そして、神はあなたを救うために完璧なみわざを成されたのです。神ご自身が人となり、神ご自身が十字架でご自身の尊いのちを捨ててくださった、この犠牲ゆえに、信じるすべての人に救いが与えられる、これこそ、神が私たちのために備えてくださった救いです。この救いにこそ、あなたのすべての罪が赦される力があるのです。そして、この救い主によって人々が生まれ変わります。その中の一人はあなたです。そうでしょうか？皆さん！だから、私たちはこの方を宣べ伝えるのです。私たちの周りにはこの方を知らない人が溢れているからです。永遠のさばきに向かっていく人たちが…。

1924年（大正13年）、ピーター・フィルポットはシカゴのムーディ教会の牧師でした。ある夜、助けを求める電話で彼は起こされます。シカゴのホテルに泊まっていた若い女性を助けて欲しいという依頼でした。彼がホテルに着いたとき、そこには彼女の二人の家族が彼女に付き添っていました。その若い女性の名前はリラ・ロング、彼女の病状は酷く、大変な苦痛の中に彼女はいました。フィルポット牧師は、そこで肉体的な必要のために祈り、そして、彼女をキリストの救いへと導くという特権に与りました。次の日、彼はホテルに電話を入れて彼女の様子を聞こうとしましたが、もうすでに、彼女たちはチェックアウトしているとのことでした。連絡の取りようがないまま5～6年が経過しました。フィルポット牧師もシカゴからカリフォルニアのロサンゼルスに移り、そこの大きな教会の牧師として働きをしていました。ある集会の終わりに、シカゴで出会ったあの三人の人たちが彼の所に近づいて来るのを彼は見かけたのです。彼らは教会の案内を見て牧師に会いに来たのだと告げました。そして、これまで連絡を取らなかったことを詫びた後、彼女は牧師に救い主に導いてくれたことを感謝しました。そして、救われた後、自分の人生が全く変えられたことを伝えるのです。今では、彼女は与えられた音楽の才能を主のために使っていると彼に伝えます。そして、彼女は救いに与って間もなく作った曲を彼に手渡しました。そして、このようなことを牧師に告げるのです。「この曲は特にあなたのために書いたのです。私がそれまで知らなかった最もすばらしいお方をあなたが私に紹介してくださった、その日を記念してこの曲を書きました。」と。そのタイトルが「イエスという名は私が知っている最も愛おしいお

名前です。」でした。冒頭に紹介した通りです。こうして、このすばらしい主の御名が人々に伝えられていったということです。

信仰者の皆さん、この方を伝えることが私たちに与えられた大きな特権です。なぜなら、イエス・キリストが来られたのは、あなたの愛する人たち、あなたの友人たち、ご近所の皆さん、今、滅びに向かっている人々にこんな偉大な救い主が来られたのだ、こんなすばらしい完全な救いがあることをお知らせするためだからです。そして、このメッセージを語るのはクリスマスだけではありません。私たちは日々このメッセージを語り続けるのです。それこそ、私たちのこの主に対する感謝の表われではないですか？

救われていない皆さん、あなたはこれからの人生をどのようにして生きていきますか？なぜ、この主に背を向け続けるのですか？なぜ、この救いを拒み続けるのですか？あなたのために十字架で死んでくださったお方に背を向けて、あなたはどんな祝福を神から頂こうとするのですか？そこにあるのは、あなたに一番ふさわしい罪のさばきです。でも、感謝なことに、神はあなたを救うために来てくださった。そして、あなたを救おうと今も待っていてくださっています。この方の前に出て来ることです。罪の赦しを求めて出て来ることです。今日があなたにとっての救いとなることを心から願います。